

つかもと議員が本会議デビュー!



「明日に希望が見える道政を」

行政マンから議員へ、高い志を抱いて政治の場へ飛び込んだ塚本敏一さんは、7月1日の定例道議会で一般質問に立ち、堂々と本会議デビューを果たしました。自らが目指す「明日に希望が見える道政」に向け、元気いっぱいチャレンジする塚本さんに対し、周囲の期待も高まっています。



北海道議会議員

つかもと敏一さん

ごあいさつ

平成27年4月の北海道議会議員選挙におきまして、初当選することができました。責任の重さに身の引き締まる思いですが、しっかりと職務を果たしてまいります。厳しい戦いの中、道政へ送り出していただいた皆さまに心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

北海道が直面する課題は山積しており、中でも人口減少社会に立ち向かい、「明日に希望が見える道政」を実現させるという初心を忘れることなく、愛する北見、北海道のさらなる発展のために全力で頑張つてまいります。より一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

北海道議会議員
塚本敏一

～つかもと敏一さんのプロフィール～

- 昭和26年1月3日、北見市生まれ
- 北見柏陽高校、明治大学卒業
- 昭和51年北見市役所に就職。市民環境部長、企画財政部長、副市長を経て、平成27年道議選に初当選
- 現在の役職
道議会／道議会農政常任委員、同少子・高齢社会対策特別委員
道議会会派／自民党・道民会議政策審議委員
自民党／自民党道連総務会常任総務、同北海道第12選挙区支部総務会長など
- ◆家族／妻・塚本クリスティーナ・マルガレータ、娘2人
- ◆趣味／旅、アウトドア
- ◆好きな言葉／「前へ前へ」「威風堂々」「質実剛健」
- ◆好きな食べ物／ラーメン、カレー、そば、焼き肉

即戦力として高まる期待！ 新人議員の代表として活動開始

塚本議員が所属する自民党・道民会議に、11名の新人議員が入会しました。塚本議員はその11名の「輝士の会」代表に選任され、さっそく高橋はるみ知事を囲んでの意見交換会を実施しました。知事から、「3期12年の実績のもと、今後4年のスタートにあたり、議員各位と共に素晴らしい北海道をつくっていきましよう」と、力強い言葉をいただきました。今後、「輝士の会」は、北海道が直面するエネルギー問題について、視察研修を予定しております。



▲知事公邸中庭で高橋はるみ知事を囲んで輝士の会のみなさんと

また、党派を超えた道議会議員28名の新人議員「DS30」の会長にも就任しました。「DS30」とは、Dは道議会のD、SはSpiritのS、30は道議会30期を指します。

塚本敏一 事務所

北見事務所
〒090-0065
北見市寿町2丁目3-13
TEL(0157)57-4497 FAX(0157)57-4498
メールアドレス tsuka@tsukamotot.com
ホームページ http://tsukamotot.com/index.html

お気軽にお立ち寄り下さい

塚本敏一議員が道議会で 北海道の重要課題を質問

塚本敏一議員は7月1日、第2回定例道議会本会議で堂々たるデビューを果たしました。「1次産業の活性化」、「女性が輝く社会づくり」、「地域医療や広域連携」などの重要課題や「地方創生」について質問し、知事は「道と市町村が総力で地方創生に取り組んでいく」との考えを明らかにしました。



1. 知事公約達成に向けた基本的考え方について
塚本議員 4期目を迎えた知事が、公約達成に向けた基本的な考えを伺う。

高橋知事 「新・北海道ビジョン推進方針」を策定し、徹底した現場主義のもと、スピード感を持って市町村一体となって取り組んでいく。

2. 6次産業化の推進について
塚本議員 地域資源を活用した商品で、雇用と所得が確保される1次産業の6次産業化について、どのように取り組むのか伺う。

高橋知事 人材育成、販路開拓などの知識の共有と蓄積を図るとともに、機能性食品の開



発や加工しやすい農作物の品種改良に取り組んでいく。

3. 産業用大麻について
塚本議員 新しい制度の確立をめざし、産業用大麻(ヘンプ)の研究グループが、北見市ほか全道各地で立ち上がっているが、現状について伺う。

農政部長 ヘンプは繊維原料や住宅用建材として有用な作物である一方、栽培技術の確立や道民理解の獲得など、解決すべき課題も多い。科学的知見を積み重ね、栽培に向けた取り組みを進めていく。

4. 女性の活躍支援について
塚本議員 知事公約の、女性が未来にわたり輝く社会づくりについて、どう取り組んでいくのか伺う。

高橋知事 さまざまな世代や分野の女性から、少子高齢化や地域づくりについて意見を伺う場を早期に設け、女性の視点や意見を道政に反映していく。

5. 地域医療の充実について
塚本議員 オホーツク管内は医師確保が難しく、本州から高い報酬を払って医師に来てもらっている例もある。道内医学部を卒業した学生を道内に定着させる「地域枠」があるが、その増設について伺う。

保健福祉部長 道の修学資金を利用する地域枠のほか、旭川医大や札幌医大では一定期間、道内で勤務することを条件とする独自の入試枠が設けられ、道内の医学部定員は増員されている。今後も地域における医師確保に努めていく。



6. 地方創生と広域連携について
塚本議員 オホーツク管内の人口は昭和37年の約45万人をピークに減少し、昨年末に30万人を割った。道央圏や本州への流出が続く、限界集落状態に陥ることが懸念されるが、「現場からの地方創生」「北海道型地域自立圏の形成」にどう取り組んでいくのか伺う。

高橋知事 市町村と一体となったオーダーメイドの活性化策を進めるとともに、本道の実情に応じた効果的な連携のかたちを地域とともにつくり上げていく。

委員会でも質問に立つ
塚本敏一議員は委員会でも精力的に質問し、さらに自らの意見を述べた

6月2日の農政委員会で「ホッカイドウ競馬の実施状況」について、7月9日の少子・高齢社会対策特別委員会では、児童虐待の未然防止についての報告がありました。塚本敏一議員は、岩手県での中学2年生の生徒のいたましい事故の報道に触れ、北海道の取り組みについて、北見市の事例をまじえて質問しました。

北見で12区セミナーを盛大に開催

自民党道第12選挙区支部オホーツク管内ブロック協議会主催の政経セミナーが7月4日、北見市内で開かれました。12区支部長の武部新衆議院議員、同総務会長の塚本敏一議員が出席する中、林芳正農水相が講演し、「『攻めの農林水産業』の実現のため、農林水産物輸出額の倍増計画にしっかり取り組んでいきたい」と意欲を語りました。



▲約500人が出席し、林大臣の講演に熱心に耳を傾けた



▲セミナーに先立ち、オホーツク圏活性化期成会などがTPP交渉における慎重・適切な対応を要請



皆さまざまのご協力に感謝いたします